住み慣れた地域での生活を支える在宅医療

▲今年１月に開催された、在宅医療・介護連携推進講演会

在宅医療とは、通院による療養が困難な人を対象に、自宅などで行う医療のことです。医師、歯科医師、薬剤師、看護師、リハビリなどの専門職が在宅医療を提供し、ケアマネジャーやホームヘルパーなどの介護の専門職とも連携しながら、在宅での生活を支えます。

住み慣れた地域で自分らしい生活を人生の最期（さいご）まで続けていくために、市でも仕組みづくりのための取り組みを始めています。

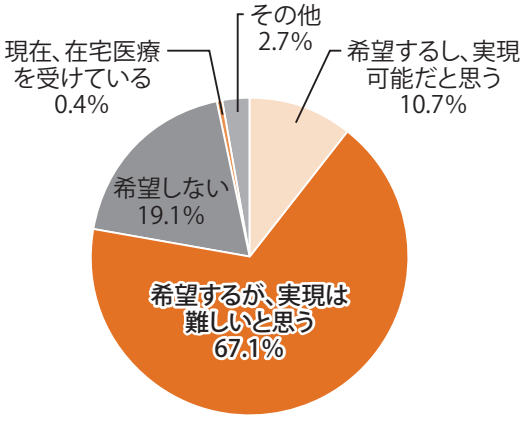
【問】高齢者サポートセンター総和(総和福祉センター「健康の駅」) ☎92-5920

在宅医療と介護に関する実態調査から見えること

市では、昨年9月に市民向けの調査を実施しました。この調査から、多くの市民が「在宅医療を受けながら最期は自宅で迎えたい」と希望しているものの、家族の肉体的・精神的負担への配慮やさまざまな側面から、その実現は難しいと感じていることが分かりました。

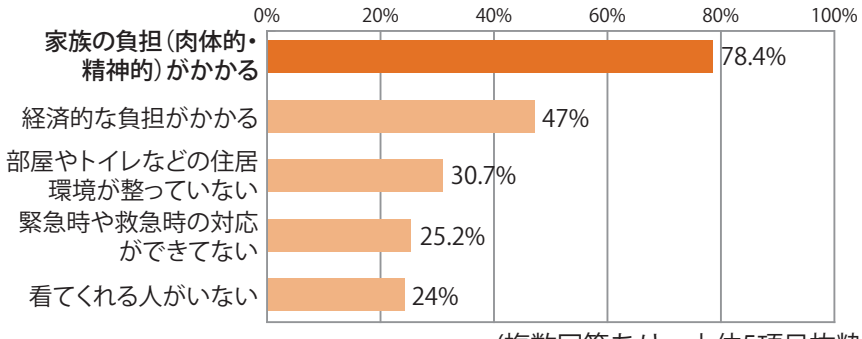
在宅医療と介護に関する実態調査結果(一部抜粋)　※平成27年9月、市民3,500人を対象に実施。

●脳卒中やがんなどで長期治療・療養が必要になった場合、在宅医療を希望しますか。また、その実現は可能だと思いますか。



約8割が在宅医療を希望していても、そのほとんどの人が、実現が難しいと思っているようです

●在宅医療を希望しない、または希望するが実現は難しいと思う理由はなんですか。



(複数回答あり・上位5項目抜粋)

在宅医療を選んだら、家族への負担が心配…